平和のための福岡２区（PEACE FUKUOKA2）は、安保法制強行採決以降、わが国の平和を取り巻く環境が大きく変化したことに危機感を持った市民が、子ども達に平和な未来を残そうと、福岡市中心部（城南区・中央区・南区）で市民向けの講演会やアピール活動、政治家との懇談などの活動を行うために集まったグループです。

PEACE FUKUOKA·2

平和のための福岡2区 vol.4

■ 発行者：後藤富和（大橋法律事務所内）
815-0033 福岡市南区大橋1丁目8-19プロベニオ大橋6F
TEL 092-512-1636　FAX 092-512-1637
gotou@ohashilo.jp

発行日：2016年4月6日

福島みずほさんとランチミーティング

２月23日「みんなで選挙ふくおか」や「安保関連法に反対するママの会＠福岡」のメンバーで、参議院議員福島みずほさん（社民党）とランチミーティングを開催した。お昼の天神で、福島さんとメンバーとで安保関連法反対のアピールを行い、その後、大名のカフェに移動し、ランチをしながら福島さんのお話をうかがった。福島さんのお話を一部紹介する。

新自由主義は一握りのための政治。大企業の人件費削減。軍需産業と原発、そして戦争する国。安倍総理にとって国民は客体でしかない。上から目線。「この道しかない」と他の未来を選ばせない。DV、パワハラと同じ構図。安倍総理は正反対の言葉を使ってひどいことをする。ナチスが台頭してきた時、アインシュタインらが社会民主主義者や共産主義者らの共闘を呼びかけたが実現できず、ナチスの悲劇を招いた。今の日本はその状況。共闘できる方とは共闘を。改憲論者である小林節早大名誉教授とも、安倍政治許さないの点で共闘している。経済的徴兵制、格差社会、非正規労働者の拡大などは、すべて戦争とつながっている。アメリカの中でも変革が起きている。日本では国民が声を上げられないところまで追い込まれている。自衛隊だけは他人の住民票を見ることができる。▶（**裏面に続く**）

（表面から続く）▶ 自衛隊勧誘のため。滋賀県の学校では自衛隊勧誘のトイレットペーパーが設置された。中学生の子を持つ母子家庭が狙われている。中高生がヒトラーユーゲントのようになる危険。憲法が変えられる危険。ナチスの国会放火事件のように、騒然とした中で、安倍政権、マスコミ一体となって憲法改正に向かうかもしれない。それに立ち向かうには、笑顔で豊かにチャーミングに、平和を、未来を語ること。

憲法の細かな論点に入りこむよりも、自民党改憲草案はそもそも憲法とはいえものではないという事実を知らせること、そして安倍政権の改憲案に反対という一点でまとまることが重要。

この政権が戦争をする時、戦争のことを「事態」と言い換えるだろう。遠くの戦場で自衛隊員が戦死しても、マスコミが伝えるこの国の日常は変わらないだろう。かつて、侵略戦争を「事変」と言い張ったこの国の歴史。「戦争」を「平和」と置き換える。ファシズムは、平板な言葉を使う。「日本人の暮らしと命を守る」「日本の安全のために」「一億層活躍」と言って戦争を始める。日本国憲法殺人事件。予告された殺人。昨年の安保法制が殺人の予備、憲法改正のは発議は実行の着手。もう殺人が予告されている。

《市民から寄せられた「市民連合ふくおか」に期待する声》

「安倍政権の行き着く先は戦争」

森部聰子（福岡・戦争に反対する女たち）

いても立ってもいれない思いで天神の街頭に立ち続けている。安倍政権の行き着く先は戦争。小学生で戦争を経験した。6月19日の福岡大空襲で家は焼かれホームレスとなった。奈良屋小学校にズラリと並べられた遺体の中で乾パンを頬張った。絶対に戦争は嫌。子どもたちにこんな経験をさせてはいけない。かつての戦争の時、女たちに選挙権はなかった。今、女たちも声を上げることができる。戦争は一度はじめたら終わらせるのが難しい。戦争をはじめさせないことが重要。

「お金がない人は死ねってことなの

伊藤絹江（看護師）

命と健康を守る医療者として安保法に反対。立憲主義も民主主義も踏みにじられた。日本を守るためでなく、同盟国のために殺し合いをさせられる法律。海外に自衛隊を派遣し、武器も輸出し、他国の人が犠牲になる。誰ひとりとして殺し殺されてはならない。かつて看護師も出征した。二度と白衣を戦場の血で汚してはならない。訪問看護の際「お金がない人は死ねってことなのね」と言われた。この国では安心して子育てができない。本当に先進国だろうか。思想信条の違いを乗り越え広範な市民の力を結集させ安保法に反対する議員を当選させる。そして安倍政権を退場させる。